

登録No.  
 登録名  
 催吐性リスク  
 適応疾患  
 投与スケジュール

R-020  
 Atezolizumab療法  
 最小度  
 非小細胞肺癌

	薬剤	投与量	最大投与量	投与日	投与経路	投与時間	備考
Rp.1	アテゾリズマブ 生食	1200mg/body 250mL/body		d1	d.i.v.	初回60min 忍容性良好なら2回目以降30minでも可	0.2又は0.22µmのインラインフィルター使用
Rp.2	生食	50mL/body		d1	d.i.v.	全開	アテゾリズマブ フラッシュ用

1クールの期間  
 標準クール数  
 最大クール数  
 休薬期間の規定  
 投与間隔短縮の規定  
 その他（副作用・PS規定等）

3週間  
 16クール（術後補助療法）  
 PDまで（進行・再発癌）

臨床試験での患者選択基準： PS：0～1

術後補助療法 Neutr：1500/mm<sup>3</sup>以上、Lympho：500/mm<sup>3</sup>以上、Plt：10万/mm<sup>3</sup>以上、Hb：9.0g/dL以上、AST・ALT・ALP：ULN×2.5以下  
 （StageⅡB～ⅢA期） T-Bil：ULN×1.25以下（シルベール症候群：≤3×ULN）、Ccr：30mL/min以上  
 INR又はaPTT≤1.5×ULN（この基準は抗凝固療法を受けていない患者のみに適用する。）

進行・再発癌 PS：0～1

Neutr：1500/mm<sup>3</sup>以上、Lympho：500/mm<sup>3</sup>以上、Plt：10万/mm<sup>3</sup>以上、Hb：9.0g/dL以上、AST・ALT・ALP：ULN×2.5以下  
 肝転移が確認されている患者：AST及び/又はALT≤5×ULN、肝転移又は骨転移が確認されている患者：アルカリホスファターゼ≤5×ULN  
 T-Bil：ULN×1.5以下（シルベール症候群：≤3×ULN）、Ccr：45mL/min以上  
 INR又はaPTT≤1.5×ULN（この基準は抗凝固療法を受けていない患者のみに適用する。）

副作用： 間質性肺炎、肝機能障害・肝炎、大腸炎・重度の下痢、膀胱炎、1型糖尿病、甲状腺機能低下症、副腎機能障害、下垂体機能障害  
 脳炎・髄膜炎、神経障害、重症筋無力症、重度の皮膚障害、腎機能障害、筋炎、横紋筋融解症、心筋炎、血球貪食症候群、Infusion reactionなど